

FADO

39

Julho 2003

月田秀子ファド倶楽部

TSUQUIDA HIDEKO FADO CLUBE JORNAL

月田秀子の昨日、今日、明日…

4月21日新橋「蛙たち」、5月10日新宿「シャンパーニュ」と、老舗のシャンソニエでの初めてのライブを終えた。両店とも、ノルマとして40枚のチケットを持たされた。事情をくんで、身近なファンの人たちが、チケット売りに奔走してくれたお陰で、満席となった。

その反面、動員をかせげずに幕を開けた赤坂「ノヴェンバーイレブンス」は、36名と前回の半分ほどの入りだった。「少しずつ聞いてくれる人が増えればいい」なんて悠長なことを言っていられない現実を目の当たりにした思いだ。

それでも、熱心なファンも出来つつある。NHKのラジオ深夜便を聞いた人、「流行歌100年」のテレビを見た人からの問合せがぼつぼつと入ってくる。ひょっとして問合せが殺到するのは…?なんて甘い憶測から、「秘書センター」なる電話引継ぎサービスの契約をしたのだが、まるで閑古鳥。経費倒れになりそうなので早々に解約をした。でも「秘書センター」の担当のI氏が、「シャンパーニュ」のライブを聴きにきてくださったのには、頭が下がった。「お手伝いできることがあったら、何なりとお申し付けください」商売は金勘定だけでなく、お役立ち精神が大事なのだ。

当分しんどいかもしれないけど、焦らず続けてゆくしかないと思っている矢先に、7月にオープンする「マヌエル・四谷店」での月2回の定期ファドライブが決まった。ポルトガル料理に情熱を燃やしているマヌエル諸氏と共に、今後、東京での月田のファドのただ一つの根拠地として、大切に育ててゆきたいと思っている。皆さんの息の永いご支援をお願いしたい。

6月6日、ノヴェンバーイレブンスでのライブの翌日、小平親子劇場主催のコンサートは、女性パワー炸裂、100名を超える聴衆で会場は埋まった。今後の地域に密着した文化活動の担い手は、女性だろうと思う。彼女達の活動は、権威主義から遠く離れている。肩書きをつけた男性諸氏の入る余地はない。ロビーには、ポルトガルワインと並んで、皆さんが家で作って持ち込んだささやかだけど暖かい手作りの料理が並んでいた。わたし達も、楽屋で舌鼓を打ちながらいただいた。

6月7日は、河口湖・アルカンシェールでのコンサート。土曜日とあって、新宿のバスターミナルの週末を郊外で過ごす人たちの喧騒から逃げるようにバスに乗り込み、2時間程後には、小鳥のさえずるアルカンシェールのベランダで野の風に吹かれていた。会場には、全国各地からボランティアの人たちが集まり、準備に走り回ってくれていた。同時開催の、佐藤文子さんの藍染めの作品たちが、会場を暖かい雰囲気演出してくれている。アルカンシェールは、マクロビオティック（自然食料理）と半断食の研修センターである。北海道をはじめ、全国から（インドからお坊さんもみえていた）100名を超える人たちが集まってくださった。その夜のパーティの食事のメニューは圧巻だ。化学調味料はもちろん、砂糖も、加工塩も、肉類も一切使わない14種類の「古式精進料理」が参加者の舌のみならず、心をも満喫させてくれた。都会の芥が洗い流されたような気分で唄っていた。

翌日の朝食が忘れられない。7時間かけて炊いた玄米のおか

ゆを、3時間かけて作られた黒の播りゴマと天然塩をふりかけていただいた。50年以上かけて蓄積されたこの世の毒素が、それくらいで洗い流されるはずないが、心身ともに生まれ変われるような錯覚に陥ってしまうほどの感動的な朝食だった。これ以上いると「健康で明るいファド」しか唄えなくなってしまうのではないかと不安に襲われた。

その日の午後は、横浜「Mu119」での3度目のライブ。河口湖から、写真家の藤樫氏が我々ミュージシャンを横浜のライブ会場まで送ってくれた。20名を超える人たちが集まってくれた。その中に、20年ほど前、西宮の故大月鷹友さんのライブハウスの常連客だったS氏がいた。「人生よありがとう」は、そのころ大月さんに教えてもらった私の馬鹿の一つ覚えの弾き語りのレパートリーだ。めったに唄うことはないが、決して忘れることの出来ない大月氏の形見のような歌だ。20年ぶりに再会できる人もいる。二度と会えない人もいる。（でもどこかでこっそり聴いているかもしれない）探しあててやっとライブを聴きにきてくださった人もいる。18年程前のポルトガルツアーの時に知り合い、毎回、ご夫婦で聴きにきてくださる人もいる。ライブ風景を撮影して、編集して持ってきてくださる人もいる。毎回、たくさんの人を誘って聴きにきてくださる人もいる。こっそり聴きにきてくださり、いつのまにか帰ってゆく人もいる。ほんとうに、様々な人に支えられて、今日まで来た。だから、やめることはできないのだ。

「Mu119」のライブを終え、早々に野上、上川両ギタリストは、帰阪。月田は、京浜東北線の硬いシートに揺られながら、身体は疲れきっていたが、心は高揚したまま帰宅。

..... 五月病

それは突然にやってきた。銀座で開催されている友人の写真展を見て、京橋まで歩き、明治屋で買い物を買ませ、家へ向かう山手線の電車の中でのことだった。どこかで一杯引っ掛けたくなり、馴染みの店に思い巡らせた時だった。「ながほり」で久しぶりに美味しい日本酒でも飲むか。その店は、大阪島之内にある店だった。「次は品川」の車内アナウンスに、ここが東京であることに気がつき、愕然とした。「東京で馴染みの店は……、」ところが、ない。急に、「ながほり」のマスターの、大阪弁が恋しくなった。「こんなことって……」東京へ36年ぶりに戻り、やはり東京の風がっていると、結構いい気分だった。「東京人は冷たい」大阪人の声が聞こえた。そういえば、東京に来て6ヶ月、くさされたことがない。皆、上品でやさしかった。大阪特有のいやみの一つも聞きたくなくなった。

「月田さん、またひとりでっか? いい男の一人ぐらい見つけなあきまへんがな」

「酒がありやいいのよ」

東京という大都会の真ん中で、私は独りだった。家に何日ももりきりでいても、こんな孤独感に苛まれたことはなかった。

五月病だろうか?

cartas

●最初で最後のTV出演の投げかけたもの大きさがここにも届いております。もうだいたい前のこと、五木寛之氏のお書きになったもので「ファド唄いの月田秀子」という人を知り、どんな人か、どんな声か、いつか一度聴いて見たらいいのだと密かに思っておりました。ファド—ポルトガル—アマリア・ロドリゲス…そんな認識しかないわたくしです。いつか出会うことがあるだろう—そんなふうに月日は巡って行きました。

日頃、歌の番組はほとんど観ないのですが、めずらしく一人TVの前でしみじみと聴いておりました。そして、「あっ！この人だ。これは出会いだ！やはり出会った！こんな声が聴きたかったのだ！久々に人の声を聴いたぞ！」そう思いました。みじろぎもせず画面に吸い寄せられて……。

素敵でした。唄う姿も顔も、全部が素敵でした。

月田秀子という人に出会いました。

その後、秋田市のCD屋さんをさがしても、あなたのCDはなく、結局NHKに問い合わせたり…そんな中で、地元紙秋田魁新報で、ファドを歌う若い女性の記事を読んで偶然だなあなど思ったりしておりました。(会報38号に載っていた福島民報のものと同じだと考えます) 数日後、たまたま知人に、TVをみて心を動かされたこと等をなぜか話したのです。その方がインターネットを通して、月田さんへ電話、CDを注文してくださり、会報やテープをコピー、ダビングしていただきました。

このあたりでこれは展開すべく展開していると感じました。さらに数日後、家に立ち寄った妹にCDを聴かせ事の顛末を話したのでございます。妹はその時會報のスケジュールをメモしたらしく自分の上京に合わせてチケットをゲットしたと申すではありませんか。

あとは、招かれているとしか言いようがありません。万障繰り合わせてまいります。5月10日シャンパーニュでお会いしましょう。

テープのお話を何度も聴きました。共感するところの多い話の内容でした。ポルトガルのファドを聴くというよりも、月田秀子にまみえに参ります。芽吹くいい季節の只中、さらにうれしいことをかみしめまして……。

(秋田/S.M子)

(大切な人とは、遅かれ早かれ出会うべくして出会うものだと、痛感する今日この頃です。理不尽で、ままならぬ世の中ですが、素晴らしい出会いが、ややもすると萎えそうになる心を奮い立たせてくれます。いつか、秋田で小さなライブをしたいものです。あなたとの出会いに感謝しながら、その時は、心の限りに歌いましょう。)

●月田さん、「大河の一滴」CD化してくださいませ!!

それか、それが無理なら、せめて今後のライブにぜひ！ぜひこの曲を必ず入れて歌って頂けませんか？

私、前も書きましたが一応プロ歌手でして、しかも演歌(笑)一応仕事から様々な歌手のライブを観ますが、歌に泣けたのは初めてです。

人は本当に美しい旋律と伴奏、そして本物の歌手が情をこめて歌う魂の歌に出会ったとき、自然と涙が頬をつたうものだと知らされました。

日々生活する上で心に効くビタミン剤がなければ、また私自身も良い歌を歌っていきません。そういう意味でも感動を本当に有難うございます。

魂の歌にジャンルもへちまありません。今後も定期的に感動をもらいにいきますね。

「大河……」のCD化、考えてくださいね。そう思っただけの方、きっと多いと思いますよ!! (ホームページ掲示板 みわさん)

(とても心強く読ませていただきました。新しいアルバムは、年末のコンサートの時に録音しようと思っています。来年春ころには出来上がると思います。「大河の一滴」はその中に入れる予定です。そのときは、必ず又お知らせしますので、聴いてくださいね。魂の歌はジャンルを問わない、まさにそのとおりだと思います。好きな歌を、勝手に一人で歌いつづけてきました。後悔はありませんが、全て一人で受けて立つのは、結構きついです。だからこそ、ここまで来られたのかもかもしれません。支えてくださっている一人一人にありがとう。どうか、あなたも人の心に届く歌を歌いつづけてくださいね。)

●今月9日から10日間のお休みを頂き、富良野、旭川などへ行っておりました。

CDとお手紙をありがとうございます。お客様はもちろん、手伝ってくれた友人達も口々に、素晴らしかったといまだに言っています。次回をいつにするか、又ご相談したいと思っています。

6月21日付デイリー読売一面と、コスモポリタン8月号の59ページにアルカンシュールの半断食が載っています。心をこめて仕事をする、必ず誰かが認めてくれる。本物であること、ひたすらであることをこれからも続けてゆきたいと思っています。これからもずっと一緒に仕事ができれば幸せです。(アルカンシュール河口湖・村上京子)

(認めてもらいたいがために何かをするのではなく、結果はついて来るものなのですね。大言壮語の宣伝よりも、まさに心をこめて、ひたむきに行動する人を見て、人が必ずいる。勝ち負けとか、意地とか、見栄とかとは無縁に、信じた道をひたすら進んでゆきたいものです。)

ensaiō

動物占いによる月田秀子分析 BYきうひい

みなさん、動物占いをご存知ですか？ 生年月日によって12の動物タイプに大別できるという占いののですが、これが結構当たると評判なのです。ちなみに挙げられている動物は、チータ・ヒツジ・コアラ・コジカ・クロヒョウ・ライオン・オオカミ・ペガサス・サル・タヌキ・トラ・ゾウ。さあ、いったい我が月田秀子はどれにあたるのでしょうか？今回は、洒落た居酒屋で一杯やりながらの実況中継をお届けします。

さてさて月田さん、どれだと思われませんか？
【オオカミね。】ほおお、なんだか正解っぽい。ちなみになんで？【満月の夜に眠れない。月に吠えるから。】

なるほどー。イメージとぴったりです。さて、鑑定してみましょうアレ？オオカミじゃないですよ月田さん。【何なの？ペガサス？かわいいヒツジちゃんとか？】

残念でした、あなたは「チータ」です！【チータ？なんかヤダなあ。】でも、そうなりますよ。

【シアワセハアルイテコナイトダーカラアルイテイクダナ？ うーむ、それはまた違うチータなんです c B

では、「チータ」の特徴をみてみましょう。まず

【瞬発力はあるが持続力はないので出だして勝負、ぶっちぎりで勝つタイプです。獲物に届かないと分かったらやめる、諦めた早いチャレンジャー】みたいですよ。当たってます？「うーん、まあ当たってるどころもあるかな。そんなにすぐには諦めないと思うけど。」「明るく華やかなムードを持った人が多い」……これは当たってますね。【歌ってるのはファドだけだね。】…。話も態度もでかい。【そう思う？ 賛同したら叩かれそうなのでノーコメント。】【異性と目が合うと自分に気があると思ってしまう。これはこれは？「うーん…最近目が悪くなってきたからなあ…」答えになってません。【ウルサイ!! まあ、人によると答えておきましょう。】【焼肉が好き、お！これはばっちり当たってますか？【そうねえ、でも、以前ほど食べなくなった。】どうも肯定的なんだか否定的なんだかよくわかりませんが、最後。「早とちりでお人好しのところがある」…あっ月田さん！さっき頼んだ焼酎もうさげられちゃいましたよ!!【あら飲んでたのに。いや、もう残ってなかったかもわかんない。まあいいや。】…私の右手にあるグラスがその焼酎なのですが…ということで、どうやら最後は当たってるみたいですね、イッヒツ。】

(そうおっしゃるきうひいさんは、「おおかみ」だそうで、わたし、「ヒツジ」でなくてよかったわ。それと近くは見えなくなったけど、遠くは、ばっちり見えるのよ。覚えておいてね。ウッフッフ 月田)

つぶやき

「月田さんは、後進を育てることはお考えではないのですか？」

7月に開店する「マヌエル・カーザ・デ・ファド」でのライブの打ち合わせの際に、マヌエルのオーナー氏から尋ねられた

かつて「カルチャーセンターで教えて欲しい」との要請には、「ファドはカルチャーセンターで教えられるたぐいの歌ではない」との固い信念から、ご辞退申し上げたことがある。それと、後進を育てることは、少し意味が違ような気がした。

「ファドを教えることは、出来ないと思っていました。今まで、教えて欲しいという方もいないわけではなかったのですが、その度には私は、【本当に、ファドを唄いたいのなら、リスボンへ行くことね】と答えていました。道は、求道者がそれぞれ切り開いてゆくものだと思うから。オーナー氏曰く、「おっしゃることはわかります。でも、もし、この人は、という方がいたら、月田さんの歌の合間に、歌っていただくことも考えてみてください。」「わかりました。頭の片すみに入れておきます。なぜか、彼の言うことは説得力をもって素直に私をうなずかせます。」

最近、ファドがとみにクローズアップされてきている。ファドの歌い手を集めてのコンサートの企画も私の耳に入ってくる。東京の「ファド愛好クラブ」もそのひとつだ。発足会では、私を含めて5人の歌手がファドの歌声を競った。一匹狼で唄いつづけてきた私には、ちょっと面食らうことだった。聴き手、歌い手さまざまなファドへの思い入れがあるにせよ、権威、政治、利権とは無縁な、純粋にファドを愛する会としてこれから発展していつて欲しいと思う。これも世の流れ、逆らわずに、淡々と処してゆこうと思っている。少しは大人になった証拠かな?????

「孤立することを恐れるな。尻尾を振って大道に反れるな 君には君の道がある。茨の道を血だらけになって歩きつづける よそ見はするな。苦しい時は、ふっと大きく息を吐いて、空を仰げばいい」もう一人の私の声がする。

◎恒例の年末コンサート決定

サンケイ企画が廃業になって危ぶまれていた毎年恒例の年末コンサートですが、今年も開催することに決定しました！今からチェックしておいてくださいネ。詳細決まり次第ご案内します。

12月10日（水）東京・新宿「シアターサンモール」
12月19日（金）大阪・桜橋「サンケイホール」

◎月田秀子ファド倶楽部10周年

2000年7月23日に会長を務めて下さっていた黒田清さんが亡くなって早3年が経ち、「月田秀子ファド倶楽部」が発足して10年を迎える今年、「月田秀子ファド倶楽部10周年記念パーティー」を9月7日に開催することにしました。日頃なかなかお目にかかれない会員皆様相互の楽しい語らいの場になることを念じ、今から楽しみにしています。一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。（同封のチラシをご参照ください。）

◎北海道ツアー

「ザ・ウィンザーホテル洞爺」でのディナーショーを盛り込んだ2泊3日の北海道ツアーを、企画しました。ちょっぴり贅沢に、北海道の澄み切った風の中で、逝く夏のひとときを月田と一緒に過ごしてみませんか？ご案内は、近々皆様のお手元にお届けします。

◎「マヌエル・カーザ・デ・ファド」開店記念特別ライブ

月田の今年の初夢が奇しくも実現する形になりました。月田の東京での活動拠点として、毎月2回の出演が決まりました。リスボンから料理人を招聘しての本格的なそして家庭的なポルトガルレストランの誕生です。

ファド倶楽部会員の皆様、応援に駆けつけてください！あわせて、今後の息の永いご声援をよろしくお願いいたします。

7月26日（土）、27日（日） *要予約（限定50名様です。早めにご予約ください。） TEL 03-5276-2432
【ディナータイム】 ポルトガル料理フルコース（ライブチャージ込） お一人様：8,000円
6時～9時 ファドライブ：8時から
【バータイム】 ドリンク・オードブル（ライブチャージ込） お一人様：4,000円
9時半～ ファドライブ：10時から

住所：東京都千代田区六番町11の7 アークスアトリウム地下1階 電話：03-5276-2432
※ JR四ツ谷駅（麹町口）より徒歩3分、丸の内線・南北線 四ツ谷駅より徒歩5分、有楽町線麹町駅より徒歩5分

fados canções

街の少年	訳詞 カウド ヴェルデ	MÍUDO DA RUA	Jorge Atayde
ぼろぼろの半ズボン うす汚れたシャツ 抜け目のない目つきで悪態をつきながら警官の手をすり抜ける 目についたものは手当たりしたい盗み取る 読まない 書かない 泣くことも知らない		Calção roto Camisa suja Olhar maloto e fujindo à rusga Rouba o que vê e o que pode tirar Não escreve, não lê não sabe chorar	
街の少年 無一文で 月か癩根代わり ベッドもごさもなく 街の少年 風の吹くままに生まれた むきだしの現実 時代の落とし子		Miúdo da rua sem eira nem beira Com tecto de lua sem cama nem esteira Miúdo da rua nacido do vento Verdade tão nua produto do tempo	
悪さをしてまわり 裸足で一人ぼっち 街角に座る姿は 哀れすらさそう 父さんや母さんに 可愛がられることもなく コップ酒を飲むほどに いっぱしのおとな気取り		Andar traquina Descalco e só Senta-se à esquina até mete dó Não tem um carinho de um pai, de uma mãe Bebe copos de vinho e sente-se alguém	
世間を向こうにまわす 度胸に不足はなく 走ったり跳んだり じっとなんかしていない 次の日が来ればまた同じことの繰り返し 夢はない ほほえみを受ける権利もない		Coragem não falta Para o mundo encarar Corre e salta sem nunca parar E o dia que vem vai-se repetir Não sonha, não tem direito a sorrir	
		訳者の一言 戦争は必ず親のない子を生ま出します。 もっとも平和日本の最近事情としては、親の子供虐待が結構あるようですが…。	

informação

会員の皆様に、お願い

「近くでのライブがない」と、お叱りのお手紙を頂きました。遠方でのライブは、交通費等の経費がかさみ活動が限定されるのが現状です。プロデューサーもマネージャーもなく、なかなか思うようにコンサートの企画ができず、心苦しく思っています。

50人ほどの集客が可能であれば、点を結びながらのライブは可能と思いますので、どうかご検討ください。

関西のライブは、交通費、宿泊費等を差し引くと、赤字の状態ですが、月田は続けます。最近、京都の「巴里野郎」、大阪の「アートクラブ」の動員がまなりません。月田の力量不足をさしおいて勝手なお願いですが、どうかライブに足を運んでください。聴きに来てくださる皆様の耳が、心が、月田のただ一つの大きな喜びです。そして支えます。

<月田秀子のスケジュール>

7月26日 (土) } 東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」開店記念 特別ライブ

27日 (日) }

予約・問合せ：03-5276-2432

ディナータイム：6:00~9:00 ステージ：8:00~

パーティタイム：9:30~ ステージ：10:00~

8月20日 (水) 東京・代々木上原・古賀政男音楽博物館「けやきホール」

問合せ：tel:03-3464-1165 (NHKサービスセンターステラ事業部)

NHKラジオ深夜便「ロマンチックコンサート」公開録音

「ラテンの憂いと情熱—ファド&チャマメ (アルゼンチン)」

20日 (水) 東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 予約・問合せ：03-5276-2432

21日 (木) 東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 予約・問合せ：03-5276-2432

27日 (水) 京都・四条河原町「巴里野郎」 問合せ：075-361-3535

ステージ：①8:00 ②9:00 ③10:00 (入れ替えなし) チャージ3,500円

28日 (木) 大阪・心斎橋「アートクラブ」 問合せ：06-6212-2870

ステージ：8:00から3回 (入れ替えなし) チャージ：2,800円

29日 (金) 大阪・南方「三裕の館」 問合せ：06-6304-1745

ステージ：①8:00 ②9:00 (入れ替えなし) ワイン・オードブル付5,000円

9月7日 (日) 大阪・本町「ラ・ロシェル」月田秀子ファド倶楽部10周年記念パーティ

12:30開宴 *別紙チラシ参照 問合せ：072-821-1192 (森本)

11日 (木) 東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 予約・問合せ：03-5276-2432

12日 (金) 東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 予約・問合せ：03-5276-2432

21日 (日) 北海道・洞爺湖「ザ・ウィンザーホテル・洞爺」 問合せ：075-231-4155

*詳細は後日、DMにてお送りします。

24日 (水) 京都・四条河原町「巴里野郎」 問合せ：075-361-3535

ステージ：①8:00 ②9:00 ③10:00 (入れ替えなし) チャージ3,500円

25日 (木) 大阪・心斎橋「アートクラブ」 問合せ：06-6212-2870

ステージ：8:00から3回 (入れ替えなし) チャージ：2,800円

26日 (金) 大阪・南方「三裕の館」 問合せ：06-6304-1745

ステージ：①8:00 ②9:00 (入れ替えなし) ワイン・オードブル付5,000円

10月2日 (木) 横浜・上大岡「港南区民文化センター『ひまわりの郷』」

問合せ：045-845-6274

開場：18:30 開演：19:00

チケット：3000円

3日 (金) 東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 予約・問合せ：03-5276-2432

~~4日 (土) 東京・四谷「マヌエル・カーザ・デ・ファド」 予約・問合せ：03-5276-2432~~

5日 (日) 横須賀「ヨコスカ・ベイサイド・ポケット」

世界民族音楽の旅シリーズ IX・スペイン&ポルトガル

“アンダルシアの陽光とファドの哀愁” 予約・問合せ：046-823-9999

<編集後記>

毎度必ず期限ぎりぎりの入稿で、印刷の柳田君を煩わせている。にもかかわらず、彼の声は優しく暖かい。人の心を和ませてくれる存在・声というものがある。その声に、いつになく心軽く、入稿後、調子に乗って今日は2キロ泳いでしまった。やはり私はチーター？現在駐英のエピソード帖担当の内間氏に代わって、爽やかに登場してくれたきうびい嬢に感謝。(月田)

月田秀子ファド倶楽部ホームページ

<http://www.fado.jp/>

■月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第39号

■2003年7月1日発行 (季刊) 年4回発行

■編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局

■〒108-0075 東京都港区港南1-8-27 日新ビル1406号

■TEL&FAX 03-3458-9806